

令和6年度第1回銚子市地域福祉推進協議会 会議概要

1. 日時 令和6年7月31日(水) 午後2時00分から午後3時50分まで

2. 場所 銚子市役所 1階市民ホール

3. 出席者

【委員】

英委員(会長)、高木委員(副会長)、伊東委員、吉田委員、大木委員、柏熊委員、鈴木委員、田代委員、岩瀬委員、実川委員、宮内委員、南雲委員、土屋委員、五十嵐委員

【事務局】

社会福祉課社会福祉室：山口課長、飯島室長、石田主事
銚子市社会福祉協議会：伊藤局長

【欠席者】

石丸委員

【傍聴人】

1名

4. 議題

- (1) 「銚子市地域福祉計画・地域福祉活動計画」の進捗状況について(令和5年度分)
- (2) 今後のスケジュールについて

5. 審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

会議に先立ち、本会議を公開すること、議事録または議事概要を作成し、会議資料とともに市ホームページで公表することについて事務局から説明し、委員の了承を得た。

(事務局) それでは、ただいまから、銚子市地域福祉推進協議会の令和6年度第1回の会議を開会します。

本日の会議には、委員総数15名中、14名の出席があり、過半数を超えていますので、銚子市附属機関の設置等に関する条例第6条第2項の規定により会議は成立します。なお、本日所要によりご欠席の委員は銚子市公共職業安定所、石丸委員です。

また、今回新たに委嘱された委員をご紹介します。銚子市民間保育園連絡協議会より大木委員、海匠健康福祉センターより南雲委員、以上2名となります。

それでは、議事に入らせていただきます。条例第6条第1項の規定により、会長が会

議の議長となりますので英会長、議事の進行をよろしく申し上げます。

(議 長) 本日は議長を務めさせていただきます。よろしく申し上げます。議事に入る前に、今朝うちで関わっていた単身の高齢者が亡くなって、午前中はその対応に追われていました。今日職員が会う約束をしていたのですが、時間になっても来ないということで様子を見に行ったら倒れていたそうです。

地域福祉計画の3ページ目に、「銚子市の地域社会は高齢化に伴う人口減少、個人の価値観や生活様式の多様化によって人と人とのつながりが弱まり、近隣住民との人間関係が希薄になり、互いの顔が見えにくい状況が広がっています。生活課題が多様化、複合化し、行政の対応だけでは解決が難しい課題が増加しています。このような中、市民や地域、行政等が世代や分野を越えてお互いに助け合い支えあい共生する社会を目指す地域共生社会の実現に向けた取り組みが求められています」と書いてあります。要は、この計画を基に地域共生社会を実現していくということが基本にあります。

今朝そんなことがあったので、もう少しお互いを気にかけてあげることがあれば、結果論ですが、何か変わったのかなとも思う次第です。ですので、その辺をスタート地点として、皆さんの立場から忌憚のない意見をいただきながら、地域共生社会をどうやって実現していくかを検討する会にしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

すみません、長くなりましたが、議題の方に入っていきます。それではまず議題の1、銚子市地域福祉計画、地域福祉活動計画進捗状況について事務局より説明をお願いします。

(事 務 局) ※※※ 進捗状況について説明(資料1~6) ※※※

(議 長) 今説明いただきましたけれども、とりあえずのところ質問や本協議会の位置づけについてはよろしいですか。では、各委員から事前に質問が出ていると思っておりますので、それについての説明と回答をお願いします。

(事 務 局) 最初に申し上げますが、この場合は個別の事業の評価を詳細に行ったり、対応や改善策を検討したりするものではありません。事前にいただいた質問に対しては、事業担当課に確認をしている部分もありますので、それを皆様にお伝えするとともに、この会議で出た意見については、担当課にフィードバックして、改善の方向に向けていきたいと考えています。

冒頭にありましたように、3名の委員から事前の質問をいただいております。それについて、事務局の考え方をご説明させていただきます。

事前の質問事項につきましては、本日机の上に置かせていただいております。まず、お一人目の委員からご質問をいただいております。

計画全体に関することで、例えば評価指標が「有無」になっている事業について、なるべく数字を入れた方がわかりやすいというご意見でした。確かにおっしゃるとおり

であります。次回以降になってしまいますが、可能な限り数値の記載に努めるようにしたいと思います。ただ、この確認票はなるべく簡潔に書くようにと担当課に指示しておりますので、あまり詳細過ぎる記載というものどうかなという部分があります。そこから辺のバランスを取りながら次回改善したいと思います。

それからA評価に対していくつかの事例、ここに記載の事業について、コロナ禍以降の積極的な取り組みがよく見えますということで評価していただきました。昨年の5月にコロナが5類に移行した関係で、今年度は少しずつ市民の皆様様の活動範囲が広がりましたし、行政の事業対象範囲も広がったということがありますので、コロナの5類移行による好影響が、ここに記載の事業については現れております。それに加えて個別の事情を申し上げますと、例えば子育て広場は、コロナの関係もありますが、毎週水曜日と木曜日に午後の部を開設したので、数が増えました。ファミリーサポートセンター事業については、令和4年の11月から開始になっておりますので、令和5年度はまるまる1年間やったことが影響しています。コロナの影響に加え、個々の事情がいくつか入っておりますが、役所としては事業が少しやりやすくなったというところがあります。

それからB評価についてのご意見で、B評価は評価理由と今後の課題、これを具体的にどのように取り組んでいくのか書いた方がわかりやすくなるという意見でした。こちらもおっしゃるとおりでございます。B評価の事業の課題については、確認票の今後の課題の欄に記載するなどしたいと思っております。これも先ほど申し上げたとおり、あまり詳細に書きすぎないように、市民の方が見てもわかるような記載内容にしたいと考えておりますので、次回以降、事務局と事業担当課で相談をしながら、わかりやすい記載に努めていきたいと思っております。

それから個別事業に関してです。まず121301福祉まつりの関係で、福祉計画における行政の評価と活動計画における社協の評価がすれ違ってないかというご意見でした。こちらについては事業開催の支援側、市側の評価と、事業を実施している社協側の評価になり、それぞれ見方、視点が違う部分がありますので、必ずしもその記載内容は一致しないのではないかと考えています。ただ、当然事業の実施の段階では、市と社協がよく連携をとるようにしたいと思います。

それから2番目の事業で121502育児サークルに対する支援が未実施だった理由を書いた方がよいというご意見です。おっしゃるとおり、C評価のものについてはなぜ実施できなかったか、どこが問題だったかを、確認票の今後の課題の辺りに記載するようになりたいと考えています。ちなみに個別の事業で言うと、過去にはコロナの感染予防物品を育児サークルに配るといったような個別の支援実績があります。ただ、育児サークルについては、任意の団体や小さく緩い繋がりなどの団体など様々な団体がありまして、全体の把握ができていません。支援対象がはっきり捉えられていないことが第1の問題点で、そこから辺の把握から始めたいと思っております。

それから三つ目の312201なぜ制度のはざま問題の検討を行えなかったかというご意見です。こちら先ほどご説明したとおり、C評価についてはなぜ実績がなかったのか、どこに問題があったのかということ、記載するようになりたいと思っております。こちら

の個別の事情を申し上げますと、はざまの問題を検討したいと考えて、地域福祉の推進幹事会を関連各課で立ち上げましたが、この1年、2年は、地域福祉計画の策定や評価方法の検討が主になってしまい、はざまの問題については具体的な検討に入っていませんでした。

それから4番目の332101ですけれども、これは第三者委員制度の周知ができなかったことについて、きちんと分析評価して記載した方がいいという意見ですが、これもやはりC評価に関わることで、こちらも改善策、対応策を記載していくようにしたいと思います。これも個別事情については、苦情解決の仕組みについては、各事業所が主体で行うものであるという考えで、行政がそこに指導する機会などがあまりなかったため、周知するタイミング、きっかけ、場所をはっきりさせられなかったというのが、できなかった状況になります。

それから五つ目の132101の精神障害者ピアサポート事業の支援実績が減少した理由ですが、これは市の主催事業から委託に変更したからではなく、令和4年度に毎月開催していた集会在、令和5年度は2ヶ月に1回の開催になったことが一番の減少の理由だと聞いております。なぜ2ヶ月に1回になったかという、主催者、受託している民間のNPOですが、その負担が大きすぎて、毎月やるのが大変だったためです。

お一人目の委員からの地域福祉計画、行政の計画に対するご意見については、以上の考えになります。

(事務局) 続きまして、地域福祉活動計画でいただいた意見について説明させていただきます。全体について地域福祉計画と同じように、実施の「有無」が指標になっている事業は実績を入れた方がいいのではないかというご意見です。

一つ目の110002の社福だよりの発行、これは確認票にあるとおり、年4回の発行がルールになっておりまして、毎年度4回の実施をしております。

それから130004、それから130006、社会福祉大会と結婚50周年記念事業につきましては、毎年1回になっておりますので、改めて表記をしなくてもという部分がありましたので、ご理解をいただければと思います。

それからA評価のところのファミリーサポートセンターです。これは先ほど説明があったとおりだと考えております。

また、個別事業のところの福祉まつりの開催、これも先ほど説明ありましたが、支援と開催の立場の違いがありますので、必ずしも一致はしないと思いますが、推進する立場というのは一緒だと思いますので、事業実施の際は、市の方とも十分協議をしていきたいと考えています。以上でございます。

(委員) 丁寧なご説明ありがとうございました。評価について、数値を入れるように改善していただけるということで、私も市民の方もその方がわかりやすいので、「有無」で判断するよりは、測れるものは数値の方がいいのかなと思いました。B評価のところは、何が問題なのかということが少しでも書いてあった方が、ここが問題だとわかるので、

書いてある方がいいのかなと思いました。

一つだけ、地域福祉計画と活動計画の差異のところ、福祉まつりが気になりまして、コロナで4年間実施していなくて、今回500人、30団体とたくさんの参加があって、活動計画の評価にあるように参加型にしたことがよかったのではないかと思います。福祉計画の確認票に「社協は共催を希望しているが、現状の民間主導の方がよい」とあるので、共催だと取り組みが広がりやすいとか団体が増えるとか、逆に民間主導の方がいいとかその辺の考えを教えてください。

(事務局) 去年の大会では参加型にしようということで、市がもっと協力して、出てこいということで、私どもの方も一緒にやらせていただいたという部分があります。ですから、共催を否定しているわけではなくて、今でも十分会長を筆頭に民間主導でできていて、市の方も協力体制をとっておりますので、必ずしも共催に移行しなくても、十分実りある大会になっているという認識でこのような記載をさせていただいています。

(委員) よくわかりました。

(事務局) 2人目の質問、意見です。まず計画全体に関する事で、元々計画自体が貧弱なので、この評価をもって充実した福祉施策が実施できていると評価していいのか悩む、また、担当者の判断としてAが圧倒的に多い状況から、担当者の問題意識等が感じられないと同時に、新たな展開が望めないように思われたというご意見です。厳しい内容のご意見ではありますが、貴重なご意見として賜りたいと思います。先ほど幹事会の話もさせていただきましたが、A評価とB評価、これは評価した担当者は非常に悩んでおりました。そこでその線引きとして、何かまだ課題や工夫の余地があって、さらに良い事業になるという見込みや見立てがあるならば、B評価にして問題意識を持って向かっていきましょうという線引きになると考えております。Aだと問題意識が何もないというわけではないと思いますし、問題意識を持ってより良くしていこうということで全てをB評価にした方がいいのか、AとBの線引きは非常に難しいところで、幹事会でも議論があったところです。

それから個別事業に関する事で、1番目から3番目、ふれあい交流サロン、認知症カフェ、第2層協議体の活動支援についてです。他の事業もそうですが、補助金や助成金の増額、創設が地域福祉の推進に直接つながるかどうかは一概には判断できない部分もあるかと思います。ただ、こちらについては要望として事業担当課に伝えたいと思います。

それから4つ目の311201複合的な課題に対応できる相談支援体制の検討整備で、意見交換程度でもいいから、早期に体制整備をしてほしいということです。こちらC評価ですので、それに対する改善策といますか、前に進めるための対応かと思います。個別の事情に状況について申し上げますと、現在その複合的な問題、事案に対しては、各種相談部門が個別ケースごとに連携している状況であります。遅まきながら、地域計

画を策定し、庁内組織である推進幹事会、民間の皆様を含めた推進協議会を立ち上げましたので、複合的な課題に対応できる相談支援体制の整備について、早急に一步目を踏み出したいと考えております。

それから、5つ目6つ目、権利擁護関係です。包括、基幹相談支援センターの権利擁護業務、それから成年後見人等報酬助成事業ですが、いずれもご指摘のとおりであり、課題であると認識しております。なお、小さな一歩ではありますが、権利擁護関連の中核機関の設置については、高齢者福祉課と障害支援室において担当者レベルの協議を行い、方向性について情報共有といたしますか、認識を一致させたところですので。以上になります。

(委員) 私がこのように書こうと思ったきっかけですが、資料6の2ページ目の上に表があって、例えば基本方針1の「福祉のまちづくりの意識を高める」が100点満点中82.7点、「福祉の担い手を育て、支える」が100点満点で87.5、方針3.4.5も8割以上の点数が付けられていて、私の感覚と全くずれているなというのがあったので、そういうところから発しています。なぜだろうと考えたときに、評価基準の作り方で違う部分があるのかなとも思いますし、Aが圧倒的に多いですが、担当課が何も課題を感じないでA評価にしていたり、これでいいという認識をされていたりするのであれば、それは違うかなとも思いますので、問題提起的に少し厳しいことを書きました。

それから個別のところで行くと、複合的な課題に対応できる相談支援体制について、身近なところでそれぞれやっているところもあると思いますが、この会議の中にも相談援助職の方がいるので、そういうところで話し合いができたと思います。

会長の方から話がありましたが、地域の活動がだいぶ厳しくなっているのが正直感じているところです。例えば、消防団はもうかなり消滅が始まっていますし、町内会とかいろいろなところが厳しくなっています。そういうことを考えると、地域をどのように作っていくか、良くしていくかということ、私自身はすごく感じているところです。市の職員が感じていないとは思いますが、意欲的に取り組んでいく姿勢が感じられませんでした。少しだけでもいいので、こんなことをやり始めようという意欲があればいいかなと思いました。

(事務局) 3人目のご意見です。全体についてはおおむね計画どおりに進んでいるのではないかなというように評価をいただいております。

それから個別事業に関することですが、132101ピアサポート事業について、先ほどと重複する部分がありますが、B評価で評価指標の数値が減少したのは、毎月やっていた集会在2ヶ月に1回になったからだ聞いております。

また、ピアサポート事業は平成31年以降、先駆的にやっている事業なので、B評価というよりはA評価にしてはどうかというご意見です。これも評価の線引きに関わる部分ですけれども、まだ改善や工夫の余地があるとか、こうすればもう少し充実が図れるだろうと問題意識を持っている事業についてはB評価としておりますので、担当課

においても、さらに充実をさせたいという考えのもとで、B評価にいたっております。

それから、評価指標を参加人員などだけではなくて、関係機関からの評価なども加えて総合的に評価できるようにしたらどうかという意見です。この意見に関連しますが、推進幹事会で、今回の評価は行政の評価であって、市民の評価や社協の評価、各種団体や事業者など、全ての評価が揃って初めて本来の事業評価となるだろうと、単年度の行政のみの事業評価を積み重ねていくのではなくて、最終的な評価の年に市民の行動がどのように変わったかというところが最終的な評価に値するのではないかという議論がありました。今回のものは、あくまでも自己点検、自己評価になりますので、これに満足することなく、地域の皆様が地域共生社会を築き上げられるような取り組みをしていきたいと考えております。

(委員) 私もピアサポート事業に関わっていたことがありましたので、なぜ評価 B なのかなというところがあり、こちらで書かせていただきました。ピアサポート事業については、海匝地域では 10 年ほど前から実施していますが、千葉県内の他の地域では実施していないですし、全国的にとっても珍しい、先駆的な事業です。ピアサポート事業の今後の課題の欄に、確立された養成プログラムやガイドラインが存在しないため、専門性を担保することが難しいとありますが、当然のことだと思います。

また、事業を評価するにあたり、数値で表すと市民に分かりやすいですが、それと同時に別の切り口で、利用した市民やピアサポート本人はどう感じたかも組み合わせて評価できたらと思いました。評価は多角的な視点でやると、実態に即したものになり、いろいろな課題も見えてくるので、可能であれば、次回の策定時にそういう視点を持った評価指標になるといいと思います。今回のピアサポート事業の評価については、指標に基づき B ということで良いと思いますが、保健所の立場としては B だけどころなく A に近いと捉えています。

(議長) 人の生活や施策を評価することはとても難しいことだと思いますが、それにチャレンジしている銚子市の姿勢はすごいと感じています。社会は永遠に未完成なので、常に新しい課題が生まれていて、ヤングケアラーなどもその 1 つかと思います。施策の中でこれが反映されていないとか、こういうことも考えていかないといけないという意見、または感想でもいいので何かありますか。

(委員) 我々の活動の基本理念の 1 つに、社会福祉計画の中にある地域共生というのがあります。ですから、ボラ連の活動も「築く、繋ぐ、支える」をメインテーマにして、孤独死などの問題がありますが、地域でのつながりや福祉に対する理解を次世代につなげていくことが我々の責務だと思っています。関連団体の方にも、今まで私たちがやっていたことを次の代につなげよう、新しい団員を増やそうと呼びかけており、今年は若い人の団体の加入が増えています。

ボランティアの精神は「向こう三軒両隣」や「遠くの親戚より近くの他人」などがあ

りますが、このような昭和時代の良識を呼び起こしたいですし、実際、若い人にも浸透してきています。この前、ボラ連協の会議で八街市のボラ連の活動の発表があり、学校の先生がパネラーでしたが、教育の一環として子どもたちと福祉活動に参加し、福祉の必要性を教えているとのことで非常に参考になりました。今後の活動も地道に、一人じゃないという基本的な福祉の精神でやっていきたいです。

それと、今回の計画ではたくさんの項目がありますが、今年は何を主としてやるかという点、事項を掲げてもらった方が我々にもわかりやすいと感じました。

(委員) 以前、私の町内で、1人暮らしの方の家の雨戸が2日くらい閉まったままで心配だということで、警察とも連携して対応したことがありました。結果的に元気でしたが、こういう隣近所で心配するというつながりが地域には必要だと思います。愛宕第4町内会では災害の際に避難できない方の個別避難支援計画を作成しています。1人で避難できない方に対して、町内会から2-3人くらい担当者を決めて応援する体制、災害ボランティアという組織を作りました。隣近所が大事だと痛感していますので、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

(議長) 災害ボランティアに手を挙げている方の年代はどのくらいですか。

(委員) 50代以上が多いです。1人で避難できない方は、80-90代の単身の方が多いです。

(議長) 地域共生社会の基本理念には、子ども、障害を持っている方、外国籍の方など誰もが役割をもって生活するということがあります。福祉の担い手が高齢化していますが、子どもが地域で担える役割、やっていることやできそうなことはありますか。

(委員) 子どもには役割はなくてもいいと思います。子どもがいるだけで、地域が元気になったり、笑顔になったりするので、それが子どものかけがえのないことだと思います。先日、ボランティア団体の高齢の方々が来て、図工の授業をしてくださいましたが、子どもと話すのは久しぶりだったから元気になったと言っていました。お年寄りも親の世代よりも急がない、できた、できないではなく、よくやったねとかどんな作品でもほめてくれるので子どもたちも喜ぶます。そういう関わりの中で、子どもは大人を元気にしてくれているのかなと思います。

(委員) うちの保育園でも、地域の介護施設との交流会があります。今は核家族が多いので、おじいちゃんやおばあちゃんと接する機会がない子がいますが、施設の高齢者とふれあうことで優しさやモチベーションが上がるので、すごくいい活動になっています。

(議長) お二人の意見を聞いていて、子どもが参加できる場を増やすというのはとても大きなヒントかもしれないと思いました。先ほど複合的な問題の話が出ましたが、今日も市

が委託する相談機関から 3 名来ていますが、本来業務以外で支援の手が届かないとか
こういう問題に苦慮しているとかありますか。

(委 員) 私たちは、普段は生活保護に陥らないために何ができるかということで支援をして
いて、生活保護や社協の貸付の条件に合わなかった人などが相談に来ます。使える制度
があればそこに案内して、制度の狭間になる方については一緒に考えながら支援して
いますが、選り好みがあったりしてなかなか難しいところがあります。

評価の部分でも就労支援事業や家計改善支援事業は未実施になっていますが、実際
の相談の中ではそのようなことをやってはいて、ほかにも通院や借金の相談の同行な
ど、できると言えばできるが、どこまでやっていいのか、関係機関との役割分担や支援
の仕方に関する打ち合わせが増えています。一番の課題はこちらの提案に対して相談
者の気持ちに乗ってこないことで、そういうケースは時間がかかってしまいます。でき
ることは限られていますので、皆さんと相談しながら、福祉だけでなく、企業とも銚子
市の問題を共有すべきかなとも思います。

(委 員) 私は高齢者の介護保険の申請などをしてしていますが、介護サービスにつなぐだけとい
う仕事は少なくなっています。裏にある家族関係や、8050 問題、生活困窮等、ありと
あらゆる問題が絡み合って、時間がかかるし、包括支援センターだけでは解決できない
問題が多くなっています。高齢者という問題だけでなく、その裏の課題が大きくなって
いるので、いろいろな方に協力してもらいながら、問題解決に向けて頭を悩ませしてい
ます。

あと、私は認知症カフェ、毎月第 3 日曜日にオレンジカフェに参加していますが、町
内の方が、100 歳近い方もいますが、楽しみに参加してくれています。そこで感じてい
るのは、主催者側は通常の介護業務をしつつ、休みの日に、地域のために何ができるか
知恵を出し合い、準備しているので、大変だということです。補助金が増えるに越した
ことはないですが、関係者が地域のために頑張ってくれていることはつけ加えさせて
ください。

(委 員) 市の委託事業で、地域福祉推進事業や障害者の地域生活支援事業のコーディネータ
ー、地域づくり、ボランティア育成、支援者育成などを行っています。例えば、ボランテ
ィア育成でもどうやって活用し、集まってもらったらいいかとか、講演会にしても関係
者しか集まらないということがあるので、もっと福祉に関係ない市民がそういった場
に参加してくれるにはどうしたらいいか、いつも考えさせられています。

先ほどの意見にもありましたが、A 評価がかなり多くて、5 年間の計画をすでに達成
してしまっているの、この後どうするのかと考えると、スモールステップで、さらに
上に行くにはどうしたらいいかという課題を、A 評価であっても A 評価以上に行くた
めに何をするのか書く項目があってもいいかなと思いつきながら見させてもらいま
した。

(議 長) 3人の委員は相談支援事業を担っていますが、3人とも同じようなことで困っているなというのが印象的でした。複合的な課題について、他に何かありますか。

(委 員) 一つの家、家族を見たときにその中で起きている問題は高齢者や障害、虐待など様々で、一人が複数の課題を抱えていることも多々ありますので、市役所あたりを中心に、相談の窓口の人たちが状況をお互いに情報交換できる組織ができたらいいなと思っています。

(議 長) ありがとうございます。相談の事業所だけではなくて、ここに集まっている皆さんは各分野の銚子市の地域福祉を担う方々になるので、ここでのコミュニケーションが活発になれば、それでもいいのではないかなとも思います。

地域福祉を考えるうえで、社会福祉協議会はどうしても外せない、中核を担っていくところだと思いますが、今後力を入れていきたいと思っていることがありましたらお願いします。

(委 員) 今日は皆様のご意見を反映させたいと思って来ていますが、この評価について、誰がABCの評価を付けているのでしょうか。私どもは局長を中心にして、1人だけでなくみんなで評価していますが、役所は誰がどのように評価しているのか、担当者1人でやっているのか不思議に思っています。Aがだいたい多いとの声がありましたが、点数の付け方がどうか疑問に思っているのも、もしよかったら聞かせてください。

(事 務 局) 事業をやっている各課の担当職員がまず評価をして、それを上の管理職が見て妥当かどうかというのを判断しています。各課から社会福祉課に集まってきたものは、整合性を取るために少し調整をするような部分もあります。また幹事会の話になってしまいますが、担当がA評価をつけても、管理職としては、まだ改善の余地があるのではないかと悩んだ事例もあったと聞いていますし、そこがA評価とB評価の線引きの難しさの部分だと思います。繰り返しになりますが、最終的には市民の皆様がどう捉えるかが最終的な評価だと思います。答えになっていませんが、担当が評価し、それを管理職が見て、最終的には社会福祉課が少し整合性を図ったというような形になります。

(委 員) 社協にはいろいろな相談が来ますが、一番多い問題はお金の問題です。お金を借りに来るのではなくて、社協に行けばお金をもらえるとこの考えで来てしまいます。市民の意識がずれているところがあり、それが一番困っているところですが、どうしたらいいかわからないです。

(事 務 局) 今お話のあった貸付の関係ですと、社協の場合は金融機関と違って、返済が困難になったとき無理に取り立てるのではなく、その方の生活状況を見ながら、場合によっては猶予などもしますので、その辺の判断が難しいのかなとは感じています。

(議 長) ありがとうございます。住民の方の意識というところも、昔とは変わってきているなと思います。地域福祉計画では地域の支え合いの意識を高めることが大きな目標にある中で、今はその意識がとても希薄になっていると皆さん感じているようですが、こういうことをやったらいいという意見はありますか。

(委 員) うちの方で一つの例ですが、プラチナ体操を民生委員と一緒にやろうと提案したときに皆さんから大反対されまして、そのことを叔母に話したら、大丈夫だと言われました。どういうことかという、同時期に嫁いできた人たちのつながりが強くて、その人たちが中心になってやってくれています。あと地区社協で桜を見る会をやったときには、認知症の方を皆さんが誘い出して、一緒に桜を見たり、その後もその方の家を交代で見に行ったりと気にかけています。

以前とても暑い日があつて、熱中症になっちゃいけないと思って、一軒ずつ 75 歳以上のお宅に電話しました。そうしたら 1 人だけエアコンをつけてない人がいたので、その方の家に急いで行って、エアコンをつけないと死んじゃうよと言って、エアコンをつけて帰ってきたこともありました。

民生委員の見回りも限界がありますので、町内の皆さんにも協力していただかないと大変だと思います。

(委 員) 銚子市のシニアクラブは、クラブの会長をやる人がいなかったり、催し物をやっても移動手段がなかったりで、だいぶ会員数が減っています。多いときは 600 人以上いましたが、4 月 1 日現在で 399 人だったと思います。私は町内会長を 50 年くらいやっていますが、年配の方の見守りとか口だけでは言っていますが、実際にはなかなかできていなので、今後やっていきたいと考えてはいます。

(委 員) 事業番号 431203 について、民間事業者との見守り協定の締結とありますが、民間の事業者を教えてください。

(事 務 局) 13 の事業所など見守り協定を結んでおります。民児協や生協ですとか、銚子商工信用組合、それからナルク銚子、スーパーのセイミヤ、郵便局、ヤマト運輸、生協のバルシステム、銚子信金、明治安田生命、住友生命、東京海上日動火災、それから旭市にあるスズケンというような、主に生命保険会社や郵便局、外回りをしているような事業所と協定を結ぶことが多くなっています。

(委 員) そういうところから連絡が入ることありますか。民生委員は私もわかっていますが、他の事業所からはありますか。

(事 務 局) 見守りの対象が主に高齢者、障害者、児童、虐待関連になりますが、高齢者ではたまに連絡が入るそうです。私は障害部門を担当していますが、障害関連の通報というのは

あまりないです。子どもの虐待関連もそんなにないかと思います。高齢者で稀にあるというような話です。

(委 員) 去年か一昨年になりますが、商売をしている家のシャッターが開かなかったことがありました。その方はすごく元気だったので心配してなかったのですが、2日くらい開いていないというので、ちょうど鍵を持っている方がいたので、見に行ったらお風呂で亡くなっていました。その時は、お風呂で亡くなるとこんなに大変なのかという経験をしました。そういうわけで、雨戸が閉まっていたら本当に気になります。

以前に選挙の立会をしたときには、隣の町内のお年寄りの家ですが、戸が閉まっていたり全然開かないっていうんです。私は立会人で動けないので中央包括へ電話したら、日曜日にも関わらず警察官と一緒に見に行ってくれました。結果的には急病で中央病院に診察に行っていたらしいので安心しました。

今、近所のつながりが希薄だと言われていますが、持って行き方でどうとでもなるのではないかと思います。

(議 長) 貴重なお話を伺いましたが、孤独死はもしかしたらゼロにできないかもしれませんが、ゼロにするぐらいの気持ちで取り組んでいかなければいけないと思いました。

皆さんからいただいたご意見の中に、今後点検していかなければいけないなというキーワードが出ていたかと思いますので、事務局には、出た意見を本協議会の意見として、資料6の地域福祉推進協議会委員からの意見の欄に盛り込んでいただき、令和5年度における銚子市地域福祉計画・地域福祉活動計画の進捗状況の点検・評価の総括にさせていただきたいと思いますが、皆さん如何でしょうか。

(委 員) ※※※ 異議なしの声 ※※※

(議 長) ありがとうございます。また、委員の皆様のご意見の記載にかかる文章表現等は私に一任していただいて、事務局と調整したいと思いますが如何でしょうか。

(委 員) ※※※ 異議なしの声 ※※※

(議 長) それでは、そのように進めていきたいと思います。私と事務局で調整した後の資料は、後日、委員の皆さんに配付したいと思いますので、あらかじめご了承ください。

次に、議題の2「今後のスケジュールについて」を議題とします。事務局の説明をお願いします。

(事務局) ※※※ 今後のスケジュールについて説明(資料7) ※※※

(議 長) ありがとうございました。ただいまの説明で、質疑・ご意見等がありますか。

(委 員) ※※※ 質疑・意見等なし ※※※

(議 長) 質疑・ご意見もないようなので、この議題は今後のスケジュールということで委員の皆様のご了承をお願いします。

 以上で本日の議題はすべて終了しましたので、議長の職を解かせていただきます。議事運営にご協力いただきまして、ありがとうございました。

(事 務 局) 議長職ありがとうございました。その他、委員の皆様から、ご意見・ご連絡などありませんでしょうか。

(委 員) ※※※ 意見・連絡等なし ※※※

(事 務 局) 以上をもちまして、銚子市地域福祉推進協議会の令和6年度第1回会議を閉会します。